

### 《事例①「地域活性化のための土づくり～高校生コーディネーターとしての挑戦～」》

震災や新型コロナウイルスの影響で薄れてしまった地域のつながりを復活させたいという思いから始まったプロジェクト。地域住民と高校生それぞれへのニーズ調査の結果、お互いが接点を求めていることに気づき、高校生コーディネーターとして両者をつなげる活動に取り組んだ。その過程で様々な壁にぶつかり、自己と向き合う経験を通して地域のつながりづくりの本質を発見した。



### 《事例②地域に残る鉄道》

三陸鉄道が持つ魅力や価値とは何か？という問いを明らかにするために、鉄道イベントや個展イベント等の開催を通して多くの地域住民の声を聞いた。その結果から見えてきたことと、他地域の地域鉄道の事例を比較し考察することで、地域の鉄道を後世に継承していく方法を検討した。



### 《事例③「防サイクルPart 2」》

「災害で失われる命を1つでも減らしたい」という思いのもと、大槌町、釜石市をフィールドとして、行政へのヒアリングや住民へのアンケート調査を行った。約250名の方に協力いただき調査の結果、避難所に避難したくない理由があることが適切な避難行動ができない要因になっていることが明らかになり、そうした状況にある方でも、適切な避難行動ができるような方法を模索した。



### ◆生徒の感想

- ・マイプロジェクトの活動を通して、地域の方々が温かく迎えてくれる経験を数多く得て、「私はこの町にいていいんだ」という感覚が芽生えてきました。小さい頃から人見知りや人付き合いが苦手だった私ですが積極的に人と関われるようになりました。将来も、この町に貢献できる人になりたいという気持ちが強くなりました。
- ・マイプロジェクトの発表会やオンライン探究交流会を通して、大槌高校の中だけでは関われない同世代の高校生と交流できたのが良かったです。自分の活動に対して共感してもらえたり、自分とは別の視点でアドバイスもらえるのが嬉しかったです。また、同世代の人が自分と同じように頑張っていることを知って、活動に対する意欲が湧きました。
- ・最初は何をやればいいのか分からなくて不安でいっぱいでしたが、活動を重ねていくうちに知りたいことがたくさん出てきて、気づいたらマイプロに熱中している自分がいまし

た。新しいことを知ることや、物事を深く考えることの楽しさを実感することができました。

### ウ 3年生の取り組み

前期（4月～6月）、後期（11月～2月）に分けて実施した。前期では、これまでに取り組んできた学習をそれぞれの希望進路へ接続することを目指し、大学・短大進学や公務員を希望する「アカデミックコース」と専門学校進学や就職を希望する「キャリアコース」の2コースで授業を展開した。関心あるテーマの専門家や希望する職種の社会人との対話を通して、自らの現状と将来の在りたい姿を比較しながら進路実現に向けて必要な力を認識することができた。後期では18年間の学びの集大成として、これまでの人生を通して身につけた力と様々な経験から得られた知見について語るプレゼンテーションを作成した。最終的にはマイプロジェクト活動等でお世話になった地域の方を学校に招き、プレゼンテーションを発表した。

1年間を通じた授業の流れは以下の通りである。



#### 【前期（4月～6月）】

(ア) アカデミックコース：「アカデミック・オンラインディスカッション」

##### a 問いの設定・先行研究調査

前年度のマイプロジェクトで探究した問いをベースに、ディスカッションで話したい問いを設定した。論文検索サイトを活用して先行研究の調査を行うことで、自分のマイプロジェ



クトがどのような学問分野や研究と結びついているのかを認識した。各生徒がディスカッションに参加していただきたい専門家（大学教授、有識者等）を選定し、メール等でアポイントを取った。

## b アカデミック・オンラインディスカッション

生徒自身のテーマと近い分野で研究や実践に取り組む専門家とのオンラインディスカッションを下記の16テーマで実施した。生徒が4～5人1組になり、自分のテーマ以外の3つ程度のディスカッションにも参加することで、多様な問いについて深く考え、自分の意見を述べる力が身についた。また、大槌町小中高接続事業の一貫として、授業内のディスカッションの様子を公開した。



### 【問い・講師一覧】

No	問い	講師
1	時代とチーム育成にふさわしいリーダーになるためには	世羅侑未氏 (株式会社プロノイアグループ)
2	行動経済学と葛藤の関わり	小井田伸雄氏 (岩手県立大学総合政策学部教授)
3	顧客の本質的なニーズを引き出すために大切なコミュニケーションのとり方とは	阿部至氏 (フリーデザイナー)
4	医療関係者に効果的なメンタルケアとは	阿部卓史氏 (釜石大槌地区行政事務組合消防本部)
5	平等と公正について	和田大志氏 (熊本県庁)
6	保護者が家庭で応答的な環境をつくるためにはどうしたら良いのか	河合清美氏 (NPO 法人こども発達実践協議会 代表理事)
7	インクルーシブ保育への理解と普及を進めるためにどのようなことが必要か	田中恭子氏 (ペガサス福泉中央こども園 理事)
8	災害時における Well-being な栄養のありかた	清水詳子氏 (公益社団法人日本栄養士会研究・教育センター事業課)

9	高齢者と障害者と心を通わせるコミュニケーションのとり方とは	井谷重人氏 (CIL 星空)
10	動物を買わずに家族に迎え入れるにはどうしたら良いか	長野礼子氏 (株式会社 Auxi)
11	障がい者の事故を減らす方法	金子健氏 (国立特別支援教育総合研究所)
12	「高齢者の孤独」という社会課題を、コミュニケーションの力によってどのように解決しているのか	神山晃男氏 (株式会社こころみ代表取締役社長)
13	障害に対する知識を得ることと差別意識の関係性について	大塚類氏 (東京大学教育学部准教授)
14	障がいがある方から見た社会・医療福祉とは	畠山亮夏氏、畠山織恵氏 (一般社団法人 HI FIVE)
15	本を読まない若者にどうアプローチすれば本に触れてくれるのか	藤岡宏章氏 (岩手県立図書館 館長)
16	食育の取り組みについて	戸鎖悠子様 (鵜飼保育園)
17	弓道を海外に普及させるためにはどうしたらいいか	松尾牧則氏 (筑波大学准教授)
18	狭い居住空間の中で住み心地の良いインテリアのあり方とは	湯目俊彦氏 (公益社団法人インテリア産業協会東北支部)
19	大槌のような過疎地域に必要な医療とは何か	藤澤盛秀氏 (公益社団法人地域医療振興協会)

### c アカデミック・テマススピーチ

活動のまとめとして、5分間のスピーチを実施した。ディスカッションを通して自分が探究してきた問いがどのように深まり、今後の進路等にどのように活かしていきたいかを発表した。



#### 【生徒の感想】

- ・アカデミック・ディスカッションは、マイプロの延長かつ自分の進路に向けての活動だったので、とても探究のやりがいがありました。専門家の方にお話を聞いて、自分の知りた

いことを知ることができたので良かったです。友達のディスカッションは、自分のテーマと共通するところを探すことで、参考にできてとても学びになりました。

- ・自分の意見を伝えることは簡単だけど、相手の方のお話に対して瞬時に質問を練り出すことが大変でした。また、友達のディスカッションでは、自分が進んで質問したり、積極的なサポートができなかったのが悔しかったです。
- ・自分が知りたいことを幅広く知ることができ、自分の武器になるものが多く得られたと感じました。
- ・たくさんの専門家の方からお話を聞く貴重な時間でした。自分のディスカッションでは、他の人よりも多くの学びを吸収することができ、自分の進路の幅が広がったり、進路学習の材料になると思いました。友達のディスカッションでは、自分が調べていない分野の方々の話を聞くことができ、自分の分野と似ている部分もあると思いました。

### (イ) キャリアコース：「2040年の仕事と私」

#### a 職業インタビュー

自らが将来なりたい職業の先輩に対してインタビューを行った。インタビューは、仕事の内容やその職業に求められる力などについての質問を中心に行い、自らがその職業に就くために、残りの高校生活で身につけたい力について考えた。

#### 【職業・事業所一覧】

No	職種	ご協力いただいた事業所名 (フリーランスの方は氏名)
1	公務員	大槌町役場企画財政課
2	製造業	千田精密工業株式会社
3		株式会社エノモト
4		SMC株式会社
5	建築土木	株式会社青紀土木
6	食品加工	株式会社グランバー東京ラスク
7	看護師	岩手県立大槌病院
8	介護士	社会福祉法人堤福社会特別養護老人ホーム三陸園
9	事務職	大槌郵便局
10	パティシエ	菓子工房エルマーノ
11	調理師	割烹岩戸
12	美容師	株式会社花耶
13	デザイナー	内海 沙樹様



b 身につけるべき力と自身の経験を紐づける

職業インタビューでの学びをもとに今後身につけるべき力をまとめ、その力をこれまでの経験の中でどの程度身につけてきたのかを振り返った。また、現状と理想のギャップを考え、力を身につけるために自身が取り組むことの目標設定を行った。

c 最終発表会「2040年の仕事と私」

活動のまとめとして5分間のプレゼンテーションを作成し、校内で発表会を行った。



【生徒の感想】

- ・自分の就きたい職業で必要とされる力についてインタビューした結果、事前に考えていた仮説と違っていただけが多数あったけど、どの話もどんな職業にも共通して役に立つ内容でとても参考になりました。また、「思いを具現化する」というアドバイスがとても響いたので、これからの進路選択においても自分だけで満足せず他人の意見や評価を取り入れながら考えていくことを大切にしたいと思いました。
- ・職業インタビューでは、はじめは緊張して上手く質問することが出来るか心配だったのですが、講師の方が優しく声を掛けてくださり、沢山の話を聞くことが出来てとても貴重な時間になりました。私は人と関わるのがあまり得意ではないのですが人の役に立つことをするのは好きなので、進路を考える際の職業の選択肢を増やしていきたいと思いました。
- ・自分の将来就きたい職業に就いている人に話を聞くのは初めての経験だったのですが、丁

寧に質問に答えてくださって嬉しかったです。相手の要望をしっかりと掘り下げて話を聞くことや、客観的な視点や柔軟性が必要だということは私も事前に考えていましたが、今回の授業を通してその必要性を再確認できました。今回いただいたたくさんの学びを、具体的に進路につなげていきたいです。

## 【後期（11月～2月）】

（ウ）コース共通：「私が18年間で身につけた大槌（ハンマー）と知見」

### a オープンダイアログ

発表の内容を考えるにあたり、18年間で身につけた力について対話を通して確認する「オープンダイアログ」というワークを行った。このワークは、生徒3名～4名と、教員1名を加えたグループをつくり、その中から選んだ対象者1名の長所や身に付けた強み等を、残りの生徒と教員で対話を行って見つけるという内容である。自己理解だけではなく、他者からの視点で自分にどのような強みがあるのかを理解することを目的として行った。



### b プレゼンテーションの作成

学校コンセプトである「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」になぞらえ、自身が18年間で身につけた「大槌（ハンマー）＝強み」をテーマとした5分程度のプレゼンテーションを作成した。どの生徒も、最終発表会に向けて一生懸命作成を進めた。

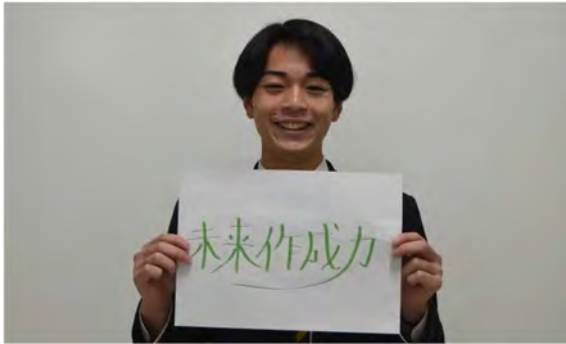
### c 最終発表会

最終発表会は、生徒1人ひとりが18年間の人生で最もお世話になった方を自ら招待する形式で実施し、マイプロジェクトでお世話になった地域の方、幼稚園・小学校・中学校でお世話になった先生、保護者の方等、約50名の方に集まっていた。会の中盤では、生徒とゲストがお互いに手紙を交換し合う時間も設け、中には生徒と関わった当時を回想し、成長した姿に思わず涙を流すゲストもあり、参加者がそれぞれの思い出や未来に思いを馳せる温かい場となった。



#### d 発表資料の公開

生徒それぞれの「18年間で身につけた“大槌（ハンマー）”」を紹介する資料とショートムービーを作成し、大槌高校ホームページでの公開や、地域の文化交流施設、ショッピングセンターでの展示を行った。



#### 【生徒の感想】

- ・オープンダイアログの活動では、自分だけでは思いつかないことを知ることができました。緊張したけれども、同じグループの人が自分の強みを真剣に話してくれてとても嬉しかったです。
- ・プレゼンを作るのは大変だったけど、これまで経験してきたことを振り返ることで自分の成長や変化を実感できました。高校3年生の就職活動の経験が自分にとってはとても大きかったことが分かりました。進路も無事に決定してやり遂げることができたので、卒業後



も頑張っていきたいです。

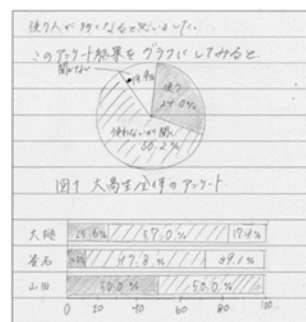
- ・発表会に招待する方を考える時に誰を呼ぶのかすごく迷いました。私から声をかけても迷惑かもしれないなと思っていたけど、勇気を持って連絡することができました。発表会では、これまでの感謝の気持ちや成長した姿を伝えることができるとても良かったです。ゲストの方は涙ぐみながら喜んでくれて、勇気を持って誘って良かったと思いました。
- ・最後の発表会は、18年間の人生の中で1番幸せな日になりました。これまで生きてきて良かったと思える時間を過ごせて嬉しかったです。
- ・これまで自分は色々な人に迷惑をかけてばかりでしたが、今日の発表会を通して、感謝の気持ちが溢れてきました。親や先生方、地域の方がどれだけ自分のことを支えてくれたのかを実感することができました。こういう授業を作ってくれてありがとうございます。

#### 【最終発表会に参加したゲストの感想】



- ・自分の想いを言葉に乗せて人に伝えるということはとても難しいことだと思いますが、生徒たちが自分なりに見つめたり、悩んだり、迷ったりしながら歩んできたことがとても伝わってきて感動しました。この子たちは、震災やコロナでたくさんの困難を経験してきた子たちでしたが、こうして前を向いている姿を見れたのが何よりも嬉しかったです。
- ・生徒たちの様子を見て、大槌高校で取り組んできた「マイプロジェクト」は間違いなかったのだと実感しました。大槌高校での学びによって素晴らしく成長した生徒たちの姿を見ることができ、素敵な時間を過ごさせてもらいました。
- ・「生徒たち自身が直接声をかければこれだけの人が集まる」というのが、何よりの大槌（ハンマー）だと感じました。これだけの地域の方に愛されているということ自体が素晴らしいと思います。10代の頃からこうした関係性を築くことができるのはとても大切だと思います。私自身も良い学びをいただきありがとうございました。
- ・生徒たちの発表を聞いて、大槌高校のコンセプト「大会を航る”大槌（ハンマー）”を持つ」との意味がとてもよく分かりました。どの子も、ここで身に付けた力を使って強く生きてほしいです。生徒たちの成長する姿は、私にとって本当に宝物です。ここまで成長を見守り関わってくださった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

(2) ひょっこり表現島 (国語)

実施学年・単位数	2年生 2単位
設置理由	地域言語を用い地域独特の表現を深く理解することにより、より多彩な「伝える力」「表現力」を育成する手立てとするために設置する。
科目目標	地域言語を深く学び、身近な言葉を大切にしながら表現力を高める。
今年度の取組	<p>〔他地域の生徒へのインタビュー調査〕 全国で使用される方言を調査し、学級内で共有をし合うことを通して自らの地域以外で使われている方言と比較しながら、自らが無意識に活用している方言について理解を深めた。また、調べた内容と実際の方言の運用のされ方の差異を調べるため、他地域の方言を調べ、日常的に使うか、どのようなニュアンスで使うかなどをオンライン交流を通して調査した。</p> <p>〔方言地図の作成〕 「かばすぐねえ」「こっこ」など、一人一語身近な方言の使用の有無、使用場面について全校に調査をし、居住地域による差異があるかどうかを分析し、レポートにまとめ、文化祭で展示した。今後、保護者や他地域の学校にも調査の協力を仰いだり、年配の方などにヒアリングをしたりすることを通して、より正確な地域ごと、地区ごとの方言地図の作成を目指す。</p>
現状の成果と課題	<p>〔成果〕 身近な言語で普段意識しない方言の特徴を捉え、親しもうとする態度が身についた。(生徒の変化例：調べてみると意外と知らない方言がたくさんあり面白かった等) オンライン交流を通して、インターネットで調べた情報と実際の現地での運用のされ方の差異に気付くことができた。また、小学生という異なる世代に対し、わかりやすく伝えることを意識し交流をした。</p> <p>〔課題〕 全校生徒のアンケートから、「その方言を使わないがほかの人が話しているのを聞く」という意見が散見されたため、世代ごとの差を見るため、保護者等にも協力を仰ぎたい。</p>
今後の取組	<p>・今後、地域の年配の方などのヒアリングを通し、疑問に思ったことを異なる年代に質問する力を醸成させるとともに、活動を通して学んだことをレポートや発表を通して表現する機会を作っていく。</p>

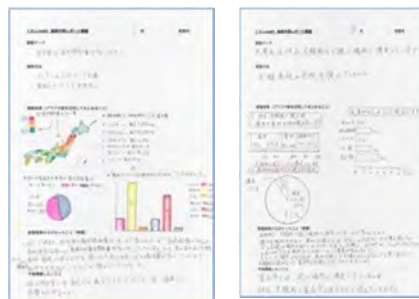


### (3) まちづくり探究 (地歴公民)



実施学年・単位数	3年生 2単位
設置理由	複雑さが増す社会においては、正解が一つに定まることはなく、様々な課題（矛盾・葛藤・衝突）が生まれる。課題の解決は容易ではないが、それぞれの主張の背景を理解しながら、解決の方向性を探る力が求められる。
科目目標	身近なテーマから地域や日本・世界にある課題に関する背景やそれぞれの主張を理解し、想像することができるようにすることで、人間関係の調整や人間関係に係る課題の解決能力向上を図る。
今年度の取組	<p>4月から6月は、チームとして話し合うために必要なことや資料の読み解き方を学んだ。「都会と田舎どちらに住みたいか」「マンガの原作をアニメ化すべきか」というテーマで話し合った。6月から9月は、デザイン思考の方法を学んだ。地域の事業者の方をゲストに呼び、作業する際使いやすいペンケースのプレゼンを行った。</p> <p>9月から11月は、学校の課題について考えた。問題と思われることを各グループでデータやアンケート等の根拠をもとに主張した。最終的に校長へのプレゼンを行った。11月から3月は、町の課題について考えていく予定。</p>  
現状の成果と課題	<p>[成果] データを活用して自らの主張を行うなど、根拠の提示ができるようになってきた。また、反論を想定しそれに対する対策まで考えられるようになってきている。</p> <p>[課題] 当事者意識の醸成にはまだ課題がある。主張や反論は挙げることができるが、深く説明を求められると立ち往生してしまう。自らをその立場に立たせ、問題を深く考える意欲を育てたい。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、民主主義制度や人権など社会的な課題とからめながら、身近な町の課題や復興に関わること、意思決定に関わることを考える機会をつかっていきたい。</li> </ul>

#### (4) くらしまth (数学)

実施学年・単位数	2年生 2単位
設置理由	生活をする中で気づかないうちに様々な分野で数学の知識が活用されている。具体的に身近な分野で活用されている数学を学ぶことにより、数学の良さを認識するために設置する。また数学を用いて、暮らしの中にある課題を発見し、解決しようとする態度の育成を目指す。
科目目標	身の回りにある事象について数学を用いて考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用して生活に役立てる態度を育てる。
今年度の取組	<p>前期は、「根拠を持って判断をする」ための演習として、客観的なデータや数値に基づいて判断をする場面（生活費、コマづくり等）や、最適解が見つからない間に対して複合的な視点で考える場面（求人票の比較、宝くじの分析等）を設定し、学習した。また、データを用いて探究するための基礎技能として、グラフの活用・アンケート調査・Excelの扱い方について学んできた。</p> <p>後期は、グループ毎に自由に問を立て、統計・データを活用し考察するレポート課題に取り組んでいる。「大槌町と塩分摂取量」「大槌町の遊ぶ場所と満足度」「大槌で再開された祭への参加」などの町と関連したテーマでレポートを進める班も出てきている。</p>
現状の成果と課題	<p>[成果]主観的で単一的視点になりがちであった多くの生徒の記述内容が、徐々に客観的・複合的な視点に変化が見られる傾向にある。</p> <p>[課題]今年度の環境においては短いサイクルの学習では、「考察する」段階まで思考を深めることは難しく、自由度の高い学び(自由なアイデアを生かす)・探究(深く考える場面設定)・多数のジャンルに触れる(短いサイクル)の3点の両立は実現できていない。</p> <p>※今年度後期は長期間の時間を確保することで、自由度の高いテーマ活動で深い考察をすることを目指している。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に目を向けることができているグループに対して、よりよい地域のデータを得ることができるようサポートする。</li> <li>・集めたデータから知見を得ること、そして次の問い・調査に繋げる部分の伴走をする。</li> </ul>



(5) おおつちラボ (理科)

実施学年・単位数	3年生 3単位
設置理由	既習内容を相互に関連付けることで、より深い理解の定着を目指し設置する。特に課題解決学習に取り組むことで問題に対しての仮説設定や、実験・検証方法を自ら模索することで、科学的課題への関心、理解を深める。
科目目標	理科的、科学的な学習内容を活用し、身近な理科的、科学的課題を自ら仮説を立て、実践を行うことで、各分野の知識を統合し自ら課題を解決する姿勢を身につけさせる。
今年度の取組	<p>「新型コロナウイルス」や「カーボンニュートラル」など、現在話題になっている時事問題をテーマに、論文や信憑性のある情報サイトから得られるデータを活用する方法を学んだ。また、日常生活の中での「便利/不便」に感じることや「不思議」なことから、調べてみたいテーマを設定し、仮説を立て、調べ学習によって検証する過程を学んだ。調べ学習で設定した仮説に対しては、自分なりに実験等を行い、データを活用した検証を行う過程を学んだ。地域課題とSDGsに注目し、17項目ある中の気候変動、再生可能エネルギー、海・陸の生態系等の理科的な到達目標に特化して調査を行った。まずは、国・大手企業・岩手県の取り組みの現状把握を行った。その後、町内のフィールドワーク（ジオ視察、岩手大槌サーモン養殖視察）を行い、取り組みの成果と課題について学んだ。今後は、自分の町をより持続可能にしていく視点を提案するため、他の自治体や企業で取り組んでいる前例を論文等から見つけ、効果の有無を検証し卒論ポスターとしてまとめる。</p>  
現状の成果と課題	<p>[成果]調べて終わるのではなく、根拠となるデータを使って検証まで行うことで、自分の言葉で論理立てて理科的に説明する力が身についた。またSDGsについての理解が深まり、地域の持続可能性に対する課題についても自分なりに調べる力がついた。</p> <p>[課題]疑問や違和感を持つ土台となる理科的な知識不足があり、テーマを自分で見つけることが難しい生徒が多い。大槌という地域には考えるテーマが多くあるが、自分なりに興味を見出し、噛み砕くことができるような基礎的な学力が必要となる。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土財エリアなどを題材に、ビオトープづくりに携わることで自然保全について考える機会となる授業を組みたいと考えている。</li> <li>・次年度以降も担当教員の専門性を活かしたフィールドワーク先を検討していく（新山高原の風力発電施設、製造業種の地元企業等）</li> </ul>

(6) Eパスポート (英語)

実施学年・単位数	2年生 3単位
設置理由	コミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰの学習内容を相互に関連付け、教科書では扱わないテーマや場面を設定し、発展的な英語によるコミュニケーション能力を育成するために設置する。特に4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す(発表・やりとり)」)をバランス良く取り入れ、多様な場面での実践的な英語コミュニケーション能力のさらなる育成を重視する。
科目目標	コミュニケーション英語Ⅰ及び英語表現Ⅰの学習内容を統合させ、多様な場面における実践的な英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。
今年度の取組	<p>前期で身につける資質能力をジブングト・課題設定と置き、ネイティブスピーカーの故郷であるカナダ・トロントに「留学をしてみる」ことをテーマに、E-Mail 文章、ホストファミリーへの自己紹介や持参するお土産やハンコを紹介するというプレゼンの作成を行った。生徒たちは自分の伝えたいことを英語にして、英語を母語にする人にもコミュニケーションを取ることができることを学んだ。</p> <p>後期は異文化理解をテーマにハロウィーンや感謝祭について学んだ。今後はクリスマスやバレンタイン、イースター(復活祭)について学習して、理解を深めたい。また、外国人に大槌や大槌高校を紹介する英文の作成も検討している。また大槌で生活する外国人を授業に招き身近にいる外国人について意識をする機会を設ける。</p>
現状の成果と課題	<p>[成果]将来的に外国の方とコミュニケーションを取ろうとするために必要な学び続をけるために基礎的な態度を身につけることができた。また道案内や入国審査などの身近なテーマを題材にすることでより真剣に取り組む様子が見られた。インタビューテストやミニプレゼンテーションも実施できた。</p> <p>[課題]基礎的な英語コミュニケーション能力を育成するため、4技能のバランスをどのように取るかが課題である。またどの教員が担当しても一定の成果があがる継続性についても今後対応していく必要がある。</p>
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人に向けた大槌の紹介映像やHPの英語版製作に取り組みたい。また、より身近なテーマについて英語で表現する機会を設けたい。</li> <li>・コラボスクールとの協力を得ながら姉妹都市であるフォートブラックとの連携を図りたい。</li> </ul>



#### 4 目標の進捗状況、成果、評価

##### (1) 資質・能力調査について

###### ◆調査概要

本校ではすべての教育活動を通して「大槌高校魅力化構想骨子」で設定した目指す人物像の3つの柱である「自立」「協働」「創造」を育てていく。令和2年度より、目指す人物像について9つの資質・能力の育成指標を設定し、年2回(5月・2月)の4件法アンケートにより調査を行っている。

※アンケート結果の詳細は【表2】参照

	No	資質・能力	内容
自立	1	ジブンゴト	三陸地域の復興や自身の未来に向けた意志をもつ
	2	課題設定	問題解決のために取り組むべき課題を明らかにする
	3	自己調整	学習の過程や結果をもとに、学び方を自律的に調整する
協働	4	共感・相互理解	価値観や意見の違いをみとめ、受け入れる
	5	One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む
	6	リーダーシップ	他者に対して前向きに働きかけ、動かす
創造	7	レジリエンス	困難な状況でもプラスに考えて乗り越える
	8	価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす
	9	チャレンジ	失敗をおそれず積極的に物事に取り組む

###### ◆調査結果

令和4年度も、5月に1回目の調査、2月に2回目の調査を実施した。5月から2月までの約1年間の変化を、【表1】に示した。

【表1】アンケート結果(概要):資質・能力別集計 ※4件法での調査

	G	H	I	A	B	C	D	E	F
	B/A	C/D	E/F	R4年 5月	R5年 2月	R4年 5月	R5年 2月	R4年 5月	R5年 2月
	1学年	2学年	3学年	1学年		2学年		3学年	
ジブンゴト	99%	100%	98%	3.06	3.02	2.91	2.91	3.10	3.03
課題設定	97%	98%	100%	3.04	2.95	3.02	2.97	3.08	3.10
自己調整	101%	102%	102%	2.79	2.81	2.70	2.76	2.82	2.87
共感相互理解	100%	99%	101%	3.38	3.40	3.37	3.35	3.34	3.37
OneTeam	97%	98%	99%	3.09	3.00	2.95	2.88	2.96	2.94
リーダーシップ	102%	103%	99%	2.91	2.96	2.84	2.93	2.96	2.93
レジリエンス	100%	100%	106%	2.66	2.65	2.76	2.76	2.74	2.89
価値創造	100%	98%	97%	2.85	2.84	2.84	2.78	2.90	2.81
チャレンジ	105%	99%	101%	2.69	2.82	2.77	2.74	2.77	2.80
平均値	100%	100%	100%	2.94	2.94	2.91	2.90	2.96	2.97

【表2】アンケート結果（詳細）：資質・能力別集計 ※4件法での調査

自立（意志がある）	質問項目	G	H	I	A		B		C		D		E		F		通番
		1学年	2学年	3学年	1学年		2学年		3学年		3学年		3学年				
		B/A	D/C	F/E	R4年5月 時点	R5年2月 時点	R4年5月 時点	R5年2月 時点	R4年5月 時点	R5年2月 時点	R4年5月 時点	R5年2月 時点	R4年5月 時点	R5年2月 時点			
ジブンゴト	1	よりよい地域づくりのために自分から積極的に活動したいと思う	91%	99%	98%	3.05	2.78	2.59	2.56	2.79	2.72	1					
	2	地域に対して貢献したいと思う	98%	97%	100%	3.03	2.98	2.79	2.70	3.02	3.02	2					
	3	自分の将来を真剣に考えている	103%	101%	97%	3.29	3.40	3.21	3.24	3.44	3.34	3					
	4	未来は自分で変えていけると思う	102%	103%	96%	2.88	2.93	3.04	3.13	3.15	3.02	4					
課題設定	5	日頃から疑問や問題意識を持って生活している	99%	95%	98%	2.71	2.69	2.82	2.69	2.88	2.83	5					
	6	理想と現実のギャップを認識できる	92%	103%	100%	3.33	3.07	3.14	3.24	3.29	3.28	6					
	7	問題が起きたとき、解決までの手順を考えることができる	101%	97%	99%	2.91	2.93	2.95	2.87	3.02	3.00	7					
	8	問題が起きたとき、原因をつきとめようとする	97%	97%	104%	3.21	3.10	3.16	3.07	3.15	3.28	8					
自己調整	9	学習している内容を他の物事と結びつけて考える	101%	102%	101%	2.67	2.71	2.63	2.69	2.81	2.85	9					
	10	自分に合った学習方法を探そうとする	105%	106%	100%	2.93	3.09	2.86	3.02	3.02	3.02	10					
	11	最後まであきらめずに理解しようとする	102%	100%	107%	3.03	3.09	2.88	2.89	2.90	3.11	11					
	12	計画を立ててから学習に取り組む	95%	100%	98%	2.52	2.38	2.45	2.44	2.54	2.49	12					
共感相互理解	13	相手の話を聞くとときは、何を伝えたいのか考えながら聞く	98%	97%	102%	3.33	3.28	3.20	3.09	3.19	3.26	13					
	14	常に相手の立場に立って理解しようとしている	97%	98%	100%	3.34	3.26	3.29	3.21	3.21	3.21	14					
	15	頑張っている人を見ると応援したくなる	99%	104%	99%	3.53	3.48	3.55	3.68	3.56	3.53	15					
	16	自分と違う意見も受け入れられることができる	107%	99%	103%	3.33	3.57	3.45	3.43	3.40	3.49	16					
One Team	17	集団の中で自分の役割を見つけることができる	97%	99%	101%	2.93	2.84	2.84	2.81	2.92	2.96	17					
	18	相手の話を聞いて質問をすることができる	92%	94%	99%	3.17	2.91	3.00	2.83	2.94	2.91	18					
	19	周囲と良い関係をつくるために、行動や発言に気をつけている	98%	102%	96%	3.50	3.41	3.27	3.34	3.35	3.23	19					
	20	自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる	103%	95%	101%	2.76	2.84	2.68	2.55	2.63	2.66	20					
リーダーシップ	21	安易に他人の意見に流されない	101%	106%	99%	2.79	2.83	2.68	2.83	2.88	2.85	21					
	22	困難な状況でも前向きな発言をすることができる	104%	98%	95%	2.64	2.74	2.68	2.62	2.83	2.70	22					
	23	互いの個性を尊重し協力することができる	105%	104%	98%	3.33	3.48	3.18	3.32	3.38	3.30	23					
	24	目的を達成するために、相手を説得することができる	98%	103%	104%	2.86	2.79	2.84	2.94	2.77	2.87	24					
レジリエンス	25	難しい仕事を与えられても、そこに楽しさを見出せる	100%	106%	103%	2.62	2.62	2.73	2.89	2.83	2.91	25					
	26	いまの苦労は将来役に立つと考えている	103%	101%	107%	3.02	3.10	3.27	3.30	3.21	3.43	26					
	27	自分はプラス思考である	95%	96%	108%	2.55	2.43	2.48	2.38	2.35	2.53	27					
	28	困難なときほど頑張れる	100%	97%	105%	2.45	2.45	2.55	2.47	2.56	2.70	28					
価値創造	29	自分には発想力がある	97%	93%	97%	2.66	2.59	2.70	2.51	2.69	2.60	29					
	30	自分なりの視点で物事を見ることができる	98%	98%	96%	3.17	3.12	3.07	3.02	3.13	3.00	30					
	31	問題を解決するために創意工夫することが得意である	102%	104%	97%	2.59	2.64	2.61	2.70	2.73	2.66	31					
	32	過去の経験を問題解決に活かすことができる	101%	97%	97%	2.98	3.00	2.98	2.89	3.06	2.98	32					
チャレンジ	33	頑張れば道は開けると考えている	105%	101%	97%	3.02	3.17	3.14	3.17	3.15	3.04	33					
	34	失敗を恐れず行動することができる	104%	98%	105%	2.48	2.59	2.52	2.47	2.46	2.57	34					
	35	何事にも積極的に取り組むことができる	107%	94%	105%	2.59	2.78	2.71	2.55	2.67	2.79	35					
	36	自ら行動して現状を変えようとする	103%	103%	100%	2.66	2.74	2.70	2.77	2.81	2.81	36					



#### ◆考察

3年生は、第1回目の調査でも全体的に高い数値が出ていたが、「レジリエンス」等の粘り強く行動する項目においてのさらなる上昇が見られた。進路実現や難易度の高い探究活動の取組が、これらの結果に影響していると推測する。1・2年生は、上昇した項目と減少した項目に二分している。様々な経験を積み重ねることで前向きな意欲が醸成され、自信を高めていることがうかがえる。探究活動等を通して、地域の課題に向き合うことが多くあったため、課題の複雑さや難しさを理解し、自己評価にもマイナスの影響が出たと推測する。

#### [3年生]

3年生は、「レジリエンス」の項目で大きな上昇が見られた。特に「いまの苦労は将来役に立つと考えている」や「困難なときほど頑張れる」などの項目が上昇したことは、目標の進路実現に向けて努力を重ね、成功体験を得たことが影響していると考えられる。また、探究活動においても難易度の高い課題に取り組んだことで、自信をつけることができ、自己評価にもプラスの影響を与えたと考えられる。その他に、自己調整の「最後まであきらめずに理解しようとする」やチャレンジの「失敗を恐れずに行動する」など、粘り強く行動し続けることに関連する項目がどれも高い数値となっている。第1回の調査では「チャレンジ」の項目が低くなっていたが、2回目の調査では上昇した。3年生は、自分の在りたい姿や経験を通して身につけた力を自分なりの言葉でまとめ、表現する活動を重ねてきた。それらを地域の方やお世話になった方々に聞いてもらうという経験を通して、次のチャレンジへの意欲も醸成されていると考えられる。

#### [2年生]

2年生は、「自己調整」の項目に上昇が見られた。特に、「自分に合った学習方法を探そうとする」が上昇しており、これまで以上に自己に向き合いながら粘り強く学習を進めていこうという意欲が見られる。また、「学習している内容を他の物事と結びつけて考える」にも、やや上昇が見られた。就職・専門学校進学希望者は、学校設定科目を中心に探究的な学びに積極的に取り組んでいることから、教科で学んだことを地域社会等の課題と結びつけながら問いを深めることができていると考えられる。共感・相互理解の「頑張っている人を見ると応援したくなる」の項目は、1・3学年と比較しても高い数値となった。今年度のマイプロジェクトは、全員が個人で探究を進めていたことから、お互いの頑張っている姿を尊重し、高めあう雰囲気づくりができていると考えられる。一方で、価値創造の「自分には発想力がある」や、チャレンジの「何事にも積極的に取り組むことができる」などは低い数値となった。1年次より高度な学習を行うことにより、難しさを感じている生徒や、「理想の自分」と「今の自分」との間にギャップを感じてしまう生徒が一定数いると考えられる。様々なチャレンジを自信に繋げ、生徒自身が自己の能力を認識できるようにサポートしていきたい。

#### [1年生]

1年生は、1回目の調査で低い数値となっていた「チャレンジ」の項目に大きな上昇が見られた。特に「何事にも積極的に取り組むことができる」の項目の数値が高いことから、高校生活で多くの生徒が新しいことにチャレンジをし、少しずつ自信に繋げることができたと考えられる。

また、「共感・相互理解」における、「自分と違う意見を受け入れることができる」という項目に大きな上昇が見られた。高校生活で新しい人間関係を構築する中で、環境への適応能力を高め、他者を受け入れる気持ちや姿勢が身につけてきたと推測できる。一方で、「課題設定」の項目は、1回目の調査より低い数値となった。特に、1年生の総合的な探究の時間では、地域課題の分析や解決に向けた方策を考える活動が中心であり、地域課題の複雑さや解決の

難しさを理解したことにより、自己認識が低くなったと考えられる。(例年、1年生はこのような傾向が見られ、学年進行により回復している)

## (2) ルーブリックを活用した評価について

校内での探究活動の評価はルーブリックを活用して行っている。評価表を作成するにあたり、大槌高校魅力化構想において策定した人物像の柱「自立・協働・創造」をベースにして三陸みらい探究で育てたい資質・能力を6つ設定した。その上で、6つの資質・能力に関する具体的な評価項目を単元別に作成し、評価を行っている。

学習指導要領解説において示される「生徒に個人として育まれる良い点や進捗の状況などを積極的に評価することや、それを通して生徒自身も自分の良い点や進捗の状況に気づくようにすることも大切である」という指針に則り、項目別の段階評価にあわせ、文章による評価も生徒に知らせている。

# 大槌高校 三陸みらい探究ルーブリック評価表 (R3～)

【三陸みらい探究で育成する資質・能力の設定】  
 ・「大槌高校魅力化構想骨子」にて設定した目指す人物像をもとに、三陸みらい探究で育成する資質・能力を6つに細分化した。  
 ・それぞれの資質・能力を3段階でレベル分けし、それぞれ1～3学年終了時の目標状態として記述語を設定した。  
 ・それぞれの記述語について、評価項目の観点をもつて設定した。

育てたい人物像	資質・能力	内容	レベル1 (1 学年終了時の目標状態)		レベル2 (2 学年終了時の目標状態)		レベル3 (3 学年終了時の目標状態)	
			高校生としての自覚		社会の一員としての自信		進路実現・社会人としての自立	
			記述語	評価項目の観点 (R4)	記述語	評価項目の観点 (R4)	記述語 (R3)	評価項目の観点 (R4)
自立 (意志がある)	1 ジブングト	三陸地域の復興や自身の未来に向けた前向きな意志	三陸地域の復興や身の回りの出来事や自分に関係のあることとを考え、自分の意見を持つことができる。	①自分や地域の理想像について、具体的な考えを述べることができる。 ②活動を人任せにせず、みずからすすんで取り組むことができる。	①自分が関心を持ったテーマについて、自信を持って語ることができる。 ②自分が関心をもったテーマに取り組み意義を説明することができる。	社会の一員として自覚をもち、よりよい未来にしようとする意志を持つことができる。	①関心領域を通じて、社会にどんな貢献をしたいか説明することができる。 ②自分の強み(大槌)を活かして社会にどんな貢献をしたいかを語ることができる。	
	2 課題設定力	課題解決や自己実現のために、課題に取り組むべき課題を明らかにする力	理想の姿と現状のギャップから問題を捉え、取り組むべき課題を考えることができる。	①「理想の姿」と「現状」を考えて、解決したい課題を挙げるができる。 ②課題が生じる原因を論理的に考えることができる。	①実行したことを振り返り、次に取り組む課題を設定することができる。 ②課題の設定と解決に向けたアクションを繰り返しながら仮説を深めることができる。	課題に対する関心や周辺知識への理解を深め、熱意をもって取り組みたいテーマを見つけられる。	①関心領域について、解決されるべき課題を説明することができる。 ②卒業後に取り組みたいテーマを自分なりに考え、自信を持って語ることができる。	
協働 (仲間とともにある)	3 共感・相互理解	価値観や意見の違いをとりとめ、前向きに受け容れる力	自分と異なる他者の意見や価値観を尊重し、受け入れることができる。	①相手に安心感を与える聞き方をすることができる。 ②相手の考えの背景を想像することができる。	①他者のテーマに関心を持ち、学び合う雰囲気づくりに貢献することができる。 ②立場や考えが違う人にとってもプラスになるようなアイデアを出すことができる。	価値観の違いをふまえて、身の回りの他者や社会全体がよりよくなるための考えを持つことができる。	①多様な関心領域を持つ仲間と共に学び合う環境づくりに貢献できる。 ②対話を通して、他者の強みを見つけていることができる。	
	4 One Team	自分の意志をよりよく伝えながら、多様な人を巻き込む力	自分の考えをはっきりと伝え、所属する集団の中で協力して活動することができる。	①他のメンバーの活動に関心を持ち、手伝ったり質問したりすることができる。 ②視線を相手の方へ向け、聞き取りやすい声で話すことができる。	①周囲や外部の協力を得て活動を行うことができる。 ②全体の流れをストーリーリーにして、相手に伝わるよう熱心に語ることができる。	自分の考えを論理性と熱意をもって伝え、多様な立場の人の中で活動することができる。	①自分の考えを伝えながら、多様な立場の人と議論することができる。 ②自分の考えを熱意をもって論理的に説明することができる。	
創造 (逆境から創り出す)	5 レジリエンス	困難な状況をプラスに考え、前向きに挑戦し続ける力	与えられた環境の中で、ひるまず前向きに物事に挑戦することができる。	①自分の考えをあらためずに言葉することができる。 ②過去の出来事や体験とつなげて自分の考えを持つことができる。	①物事が思い通りに進まないとき、打開策を考えて実行できる。 ②新しい環境にみずから飛び込んでいくことができる。	困難な体験もプラスに捉え、未知の環境へ飛び込むことを楽しむことができる。	①関心領域の専門家や職業のプロに自らアプローチしていくことができる。 ②今までの経験と自分の強み(大槌)との関連を具体的に話すことができる。	
	6 価値創造	新しい視点やアイデアをつくりだし、課題解決に活かす力	すでにある事例を参考にしながら、課題の解決策を考えることができる。	①オリジナリティのある解決策を考えることができる。 ②解決策の効果について具体的に説明することができる。	①自分なりの視点で解決策を考えることができる。 ②取り組みを振り返り、学びや発見を自分の言葉で表現することができる。	既存の枠組みにとらわれず考え、誰かの役に立つ知見を発信することができる。	①関心領域の未来を見据え、理想の姿を自分なりの言葉で説明することができる。 ②他者にとって役立つ知見を、オリジナリティのある言葉で語ることができる。	



### Ⅲ 参 考 資 料

◇目標設定シート

◇魅力化評価システムによる評価結果

ふりがな	いわてけんりつおおつちこうとうがっこう
学校名	岩手県立大槌高等学校

## 令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

### 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値(年度)
a	(成果目標) 魅力化評価システムによる調査より本校の育成したい資質能力に合致する9項目を抜粋し平均値化したものに対する肯定的解答の割合					単位:
	本事業対象生徒:		72%	73%	74%	卒業時80%
	本事業対象生徒以外:	72%	69%			
目標設定の考え方: 主体性、協働性、探究性、社会性に関わる学習が幅広く行われているかを見る。						
b	(成果目標) 魅力化評価システムによる調査において「生徒の行動実績」の平均値の肯定的解答の割合					単位:
	本事業対象生徒:		60%	62%	65%	卒業時70%
	本事業対象生徒以外:	62%	58%			
目標設定の考え方: 生徒が高校生活の中で資質・能力をどの程度発揮できているかを見る。						
c	(成果目標) 地域社会学科への入学人数					単位:
	本事業対象生徒:		60人	61人	62人	R6 61人
	本事業対象生徒以外:	( 61人 )	( 60人 )			
目標設定の考え方: 地域社会学科への入学人数は実合格人数を見る。						

#### <調査の概要について>

##### 1. 生徒を対象とした調査について

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
全校生徒数(人)	153	167	178	181	183
本事業対象生徒数			178	181	183
本事業対象外生徒数			0	0	0

ふりがな	いわてけんりつおおつちこうとうがっこう
学校名	岩手県立大槌高等学校

**令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）  
変更理由シート**

---

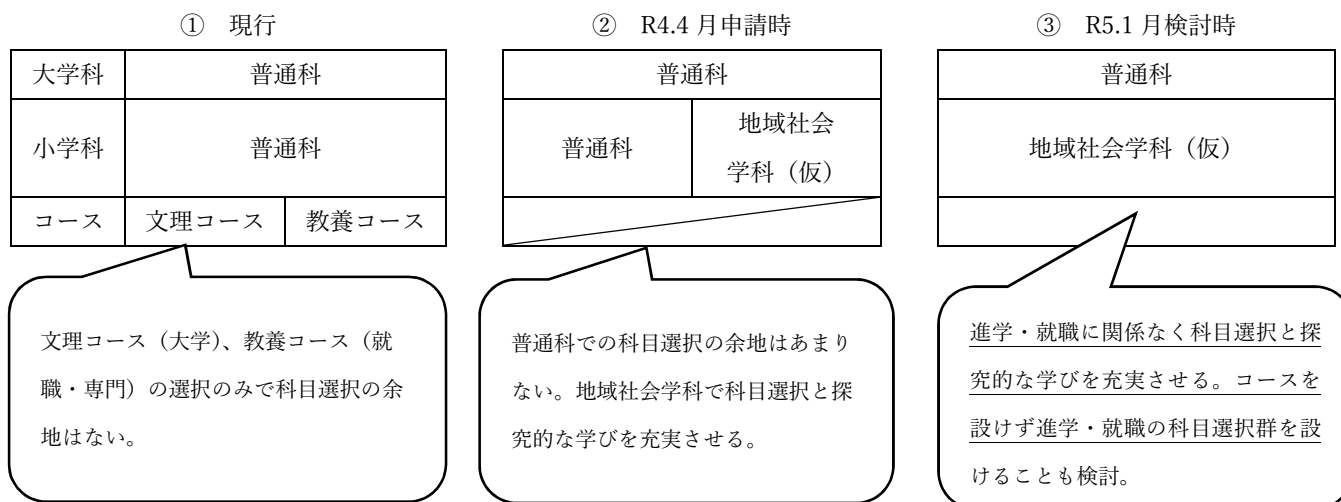
変更箇所 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム) 〇

変更理由 申請時、小学科地域社会学科(仮)1学級、小学科普通科1学級を設置予定であったが、小学科普通科を設置した場合、科目選択の余地があまりないため、2学級をともに小学科地域社会学科(仮)とし、進学・就職に関係なく科目選択の自由度を高める方向で進めることとした。これにともなって成果目標を地域社会学科への進学から地域社会学科への入学人数とした。

## 学科検討の報告

令和5年1月23日  
岩手県立大槌高等学校 副校長

### 1 検討過程の変遷



①高校再編計画の対象となり、進学・就職のより充実をはかるためコース制を導入（H13年）。

②・普通科…進学に特化（現行課程よりさらに一般選抜に対応した高度な学びを検討）する。

・地域社会学科（仮）…探究中心の学びを充実させる。

普通科・地域社会学科の2つでより特色ある学びの実現をめざす。

⇒カリキュラムWG（ワーキンググループ）で検討し生徒ワークショップ・アンケート・ヒアリングを実施

- 生徒から（アンケート・ヒアリング）
    - ・50%以上が、「希望に合わせた科目選択制」を望む。
    - ・「学校独自の特徴的な学び」（5教科の総合探究：地域みらい学を含む）希望者が多い。
    - 特に文理コース所属生徒が探究的な科目を選択してより地域の学びを深めたいという希望が多い。
    - ※参考）教養コースから県立大学総合政策学部へ1名合格（R5入試）
  - 保護者から（学校評価アンケート）
    - ・推薦入試を考え、探究的な学びが充実する教養コースからの進学をできるようにしてほしい。
  - 教員から（ワーキンググループでの検討）
    - ・一般選抜受験はほぼなし（R5…0名、R4…1名）
- ⇒進学希望者にも探究的な学びを充実させ、学校推薦型・総合型選抜へ特化、一般選抜は個別対応。



先生方の積極的な活動も踏まえ、カリキュラムWGで深く検討

科目選択の自由度を高めた教育課程編成の方向へ

③地域社会学科（仮）単独学科…より探究科目の充実を図る。

…進学・就職に関係なく科目選択の自由度を高め、学びたい学びを選ぶ（自分の学びを作る）。

→コンソーシアム会議（12月）で説明、理解を得る。

### 2 今後について

・学科編成委員会（1/26）⇒県教委への報告⇒地域社会学科単独の教育課程編成（3月初旬）

■科目選択の自由度が高まれば教員のコマ数増→小規模校の人員でどう編成するか、加配は可能か？

□教育課程に盛り込んでいきたい内容…社会教育の単位化（防災学習・東大海洋研での活動等）

キャリア学習→デュアルシステム導入、復習科目の充実、授業のオンライン履修）

・普通科改革を進めるにあたり、先生方の思いを取り入れ、自発的な活動を促していく。



# Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断ポータル

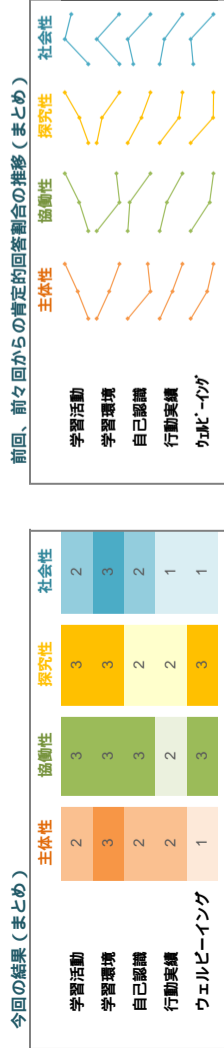
高校名 岩手県立大槌高等学校

年度	2022年度	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	0
回答者数	生徒・学生	161 (内訳)	56	56	48	4年 0	5年生 0
	(昨年度)	140 (内訳)	2年生 44	3年生 37	4年生 0	5年生 0	
大人	26 (内訳)	教職員 23	24 (内訳)	教職員 21			

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

## Summary 総括表



肯定的回答割合が50%未満=1.50、65%~80%=2.65、80%~85%=3.80%以上=4

左から前々回、前回、今回、非変換回モグラフに表示されるため読み取り注意。

### 学習活動 (明示的なカリキュラム)



上段の数値 (%): 縦軸) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

### 学習環境 (学びの土壌: 非明示的なカリキュラム)



### 【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

- ・ 自校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は?
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは? その成果は出ているのか?
- ・ 協働を支えるコーディネーター機能として、どのような役割が必要か?

## How to read 結果の読み取り方

このポータルフォリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面を 各校・地域の状態を、「学習活動」「学習環境」「生徒の自己能力認識」「生徒の行動実績」「ウェルビーイング」の5つから把握しています。
- 4つの領域から 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で 上記のデータを「時間軸 (前年度からの伸び)」「学年軸 (学年による違い)」「地域軸 (他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

【割合 (%)】 各項目で「4. あてはまる」「3. どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合

【平均】 「あてはまらない=1」「あてはまる=4」の回答の平均値

【他地域】 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値

【回答上昇者の割合】 (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

### 強み・伸びしろ

	強み: 肯定的回答割合が高い項目	伸びしろ: 肯定的回答割合が最も低い項目
学習活動	88.2% 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	47.8% 日本や世界の課題の解決方法について考える
学習環境	83.9% 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	59.6% 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
自己認識	86.3% 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	40.4% 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい
行動実績	64.6% 授業で分らないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	31.7% 地域社会などでボランティア活動に参加した
ウェルビーイング	76.4% 学校の一日だと感じている	44.1% 日本の将来は明るいと思う

### 総合的な生徒の満足度

	満足度	総合的な大人の満足度
生活全般の満足度 (0~10で8以上)	47.8%	この地域を特筆する場所としておすすめてくれる
前回、前々回からの推移	72.0%	この学校に関わってよかった
高校に対する満足度	71.4%	この学校を中学生におすすめてくれる
前回、前々回からの推移	80.8%	この学校を中学生におすすめてくれる

非変換回モグラフに表示されるため読み取り注意。

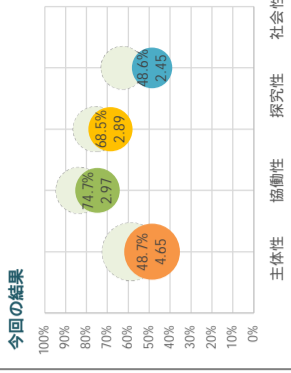
### 行動実績 (資質・能力の発揮)



### 【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は?
- ・ 生徒の自己認識との関連は?
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか?

### ウェルビーイング



### 【ウェルビーイング】読み取り・検討の視点

- ・ 学習環境や大人のあり方との関係は?
- ・ 生徒の資質能力との関連は?
- ・ ウェルビーイングの観点から学校目標にどう位置づけていくか?

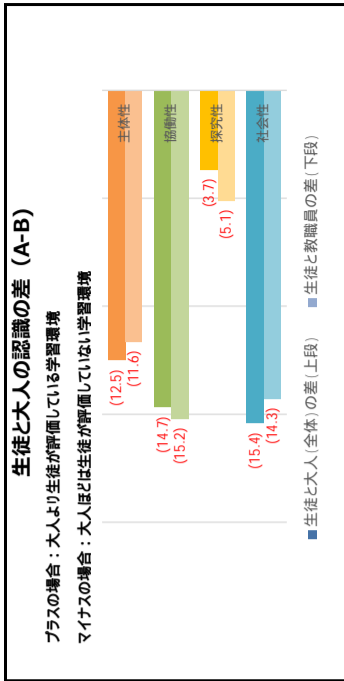
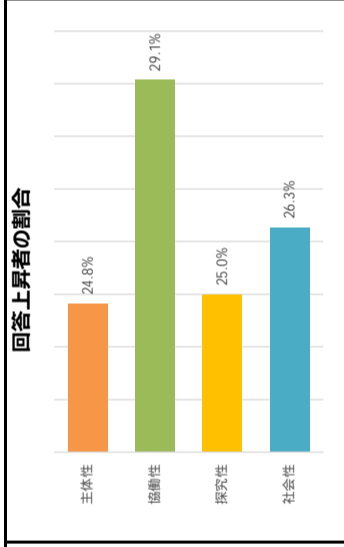
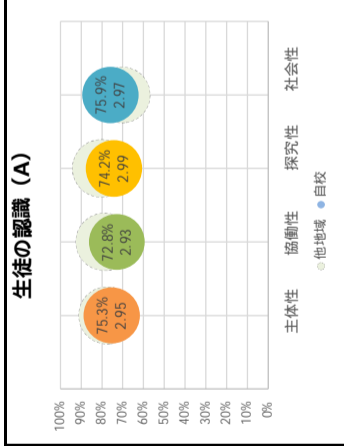
Details 詳細結果

学習活動（明示的なカリキュラム）

	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	
● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少										
<b>主体性に関わる学習活動</b>										
5 自主的に調べものや取材を行う	64.9%	3.84	60.5%	8.83	62.5%	10.81	72.9%	5.87	31.41	
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	73.3%	9.72	73.7%	16.06	71.4%	13.80	75.0%	11.36	25.94	
<b>協働性に関わる学習活動</b>										
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	56.5%	-2.05	47.4%	1.61	53.6%	7.81	70.8%	0.38	36.87	
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	78.7%	1.06	77.8%	3.20	74.4%	-0.17	84.7%	8.96	13.02	
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	81.4%	-1.49	73.7%	-7.67	78.6%	-2.78	93.8%	14.20	12.62	
<b>探究性に関わる学習活動</b>										
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	88.2%	4.63	94.7%	9.99	80.4%	-4.39	89.6%	10.04	10.34	
11 話し合った内容をまとめる	66.5%	0.03	64.9%	7.29	64.3%	6.66	70.8%	2.65	16.12	
12 活動、学習のまとめを発表する	79.3%	4.35	81.1%	9.95	74.1%	2.92	83.3%	8.33	27.20	
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	77.6%	11.21	84.2%	24.89	69.6%	10.32	79.2%	15.53	33.88	
<b>社会性に関わる学習活動</b>										
14 地域の魅力や資源について考える	79.5%	-0.50	80.7%	-0.65	76.8%	-4.57	81.3%	3.98	22.76	
15 地域の課題の解決方法について考える	84.5%	8.76	84.2%	16.41	80.4%	12.56	89.6%	7.77	32.98	
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	75.8%	-2.08	75.4%	-0.83	69.6%	-6.63	83.3%	6.06	19.18	
	60.7%	-1.24	57.3%	2.51	58.3%	3.53	67.4%	7.51	20.19	
	65.8%	1.55	64.9%	5.59	58.9%	-0.39	75.0%	15.91	14.62	
	68.3%	1.89	63.2%	3.84	69.6%	10.32	72.9%	4.73	27.63	
	47.8%	-7.17	43.9%	-1.90	46.4%	0.67	54.2%	1.89	18.32	

3年生、4年生の「回路上昇者率」は「上昇率」シートで確認いただけます

学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）



項目	生徒の認識 (A)					大人の認識 (大人全体の評価) (B)					生徒と大人の認識の差 (A-B)					
	全体		他地域との差		学年別		全体		昨年年度との差		昨年年度との差		生徒と大人 (全体)		大人質問項目	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	1年生	2年生	3年生	4年生	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	差 (pt)	差 (pt)	差 (pt)	差 (pt)
75.3%	-1.92	24.8%	72.1%	77.2%	76.8%	-	-	87.8%	-3.08	87.0%	-5.26	-12.5pt	-11.6pt	5 失敗を恐れずに挑戦することができる		
68.3%	-8.11	19.4%	64.9%	73.2%	66.7%	-	-	80.8%	-6.73	78.3%	-7.45	-12.4pt	-9.9pt	13 挑戦する人に対して、応援することができる		
83.9%	-1.15	22.4%	84.2%	85.7%	81.3%	-	-	96.2%	4.49	95.7%	5.18	-12.3pt	-11.8pt	6 目標や当事者意識を持って挑戦することができる		
82.6%	8.32	33.7%	82.5%	80.4%	85.4%	-	-	92.3%	4.81	91.3%	0.83	-9.7pt	-8.7pt	7 自身の挑戦に、周囲を巻き込みながら		
59.6%	-1.80	30.6%	54.4%	60.7%	64.6%	-	-	-	-	-	-	-	-	14 誰かが何かを挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べてくれる		
65.2%	-9.07	20.4%	56.1%	67.9%	72.9%	-	-	73.1%	-14.42	69.6%	-20.91	-7.9pt	-4.3pt	22 子どもの自己決定を尊重することができる		
83.9%	0.28	22.4%	84.2%	87.5%	79.2%	-	-	92.3%	-3.53	91.3%	-3.93	-8.5pt	-7.5pt	8 人と違うこと、異なった意見を尊重している		
82.6%	-	-	78.9%	83.9%	85.4%	-	-	92.3%	-	95.7%	-	-9.7pt	-13.0pt	9 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある		
76.4%	-	-	71.9%	78.6%	79.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある		
72.8%	0.86	29.1%	71.9%	77.7%	68.2%	-	-	87.5%	1.04	88.0%	1.14	-14.7pt	-15.2pt	28 立場や役割を超えて協働する機会がある		
70.8%	0.09	31.6%	70.2%	75.0%	66.7%	-	-	88.5%	0.96	91.3%	5.59	-17.7pt	-20.5pt	17 本音を気兼ねなく発言できる		
70.2%	-1.96	27.6%	70.2%	75.0%	64.6%	-	-	92.3%	4.81	91.3%	5.59	-22.1pt	-21.1pt	18 将来のことや実現したいことを話し合える人がある		
76.4%	-2.17	30.6%	73.7%	82.1%	72.9%	-	-	84.6%	-2.88	87.0%	-3.52	-8.2pt	-10.6pt	21 地域で生徒を育てるという意識を持っている		
73.9%	7.48	26.5%	73.7%	78.6%	68.8%	-	-	84.6%	1.28	82.6%	-3.11	-10.7pt	-8.7pt	19 生徒の関心に合わせて、機会を提供できる		
74.2%	-5.95	25.0%	68.4%	79.9%	74.5%	-	-	77.9%	-3.37	79.3%	-2.80	-3.7pt	-5.1pt	20 地域の人や課題などに触れる機会がある		
72.7%	-0.19	30.6%	71.9%	78.6%	66.7%	-	-	69.2%	-5.77	69.6%	-6.63	3.4pt	3.1pt	12 自分から離らす地域を、外からの視点で考える機会を持っている		
70.8%	-12.05	25.5%	57.9%	78.6%	77.1%	-	-	73.1%	2.24	73.9%	2.48	-2.3pt	-3.1pt			
80.1%	-5.59	18.4%	78.9%	83.9%	77.1%	-	-	92.3%	-3.53	91.3%	-3.93	-12.2pt	-11.2pt			
73.3%	-3.35	26.3%	64.9%	78.6%	77.1%	-	-	76.9%	-6.41	82.6%	-3.11	-3.6pt	-9.3pt			
75.9%	-3.35	5.66	71.9%	77.7%	78.6%	-	-	90.2%	3.85	90.2%	-0.26	-15.4pt	-14.3pt			
76.4%	-2.89	5.87	78.9%	75.0%	75.0%	-	-	88.5%	-3.21	87.0%	-3.52	-12.1pt	-10.6pt			
80.1%	-2.02	3.40	78.9%	82.1%	79.2%	-	-	92.3%	0.64	91.3%	-3.93	-12.2pt	-11.2pt			
77.6%	-0.93	13.41	68.4%	82.1%	83.3%	-	-	88.5%	0.96	87.0%	-3.52	-10.8pt	-9.3pt			
69.6%	-7.58	20.4%	61.4%	71.4%	77.1%	-	-	96.2%	16.99	95.7%	9.94	-26.6pt	-26.1pt			

生徒の自己認識（資質・能力の主体的認識）

10p以上の増加 ● 0-10pの増加 ● 減少

主体性に関わる自己認識

【自己肯定感・自己有用感】

51 自分にはよいところがあると思う

52 私は、自分自身に満足している

【課題設定力】

39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる

【行動力】

40 目標を設定し、確実に行動することができる

53 自分で計画を立てて活動することができる

【粘り強さ】

37 うまくいかからないことにも意欲的に取り組む

47 忍耐強く（物事に）取り組むことができる

協働性に関わる自己認識

【受容力】

43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる

【対話力】

42 相手の意見を丁寧に聞くことができる

【表現力】

49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ

【共働力】

44 共同作業など、自分の力が発揮できる

探究性に関わる自己認識

【学びの意欲】

38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する

61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる

67 学習を通じて、自分がしたいことが増えている

【情報活用能力】

45 情報を、勉強したことに関連づけで理解できる

46 勉強したものを実際に応用してみる

【批判的思考力】

41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ

54 一つ一つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする

【省察力】

48 自分を客観的に理解することができる

社会性に関わる自己認識

【地域貢献意識】

65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい

56 地域をよりよくなるため、地域の問題に関わりたい

58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい

【社会参画意識】

57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない

62 地域や社会での問題やできごとに関心がある

55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う

【グローバル意識】

59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う

64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい

63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う

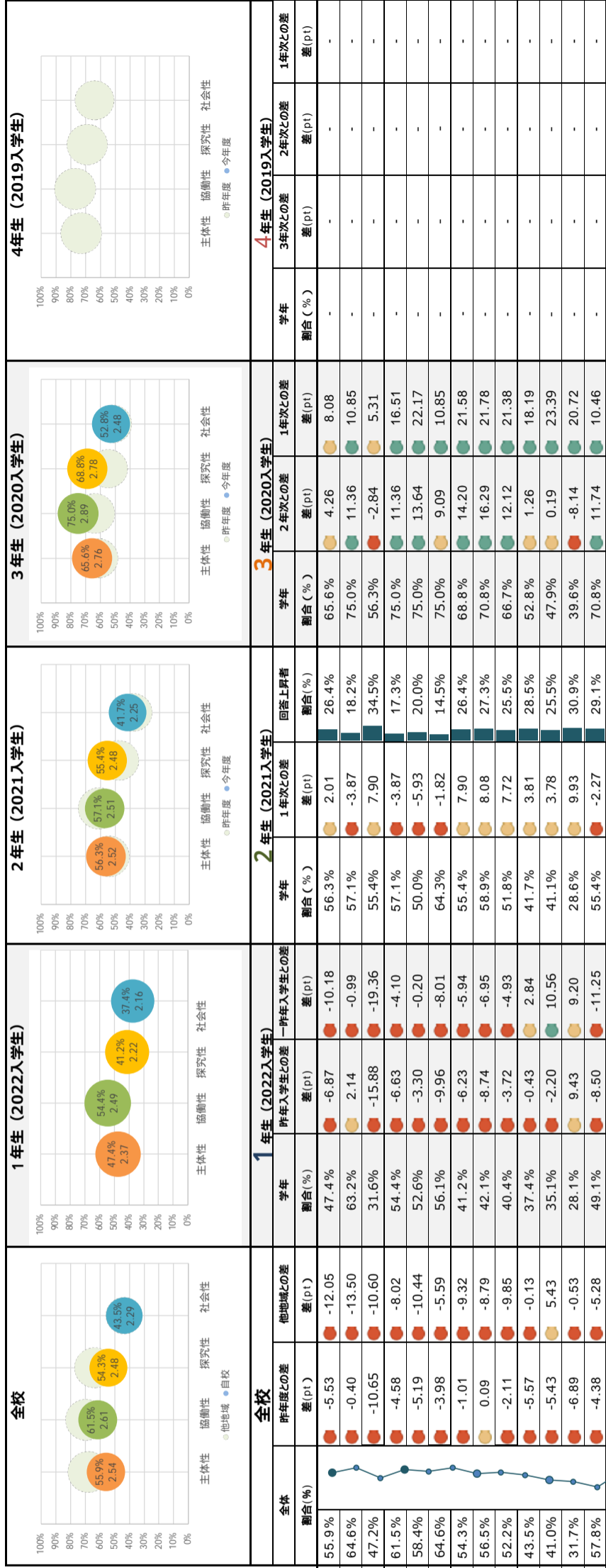
【持続可能意識】

60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい

68 自分の将来について明るい希望を持っている

Table with 10 columns: 全体 (Overall), 1年生 (2022入学生), 2年生 (2021入学生), 3年生 (2020入学生), 4年生 (2019入学生). Each column contains data for 68 items, including percentage, score difference (差), and score change (差). A line graph at the top shows the overall percentage trend from 2019 to 2022.

生徒の行動実績（資質・能力の発揮）



	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
全体	55.9%	-5.53	47.4%	-10.18	56.3%	2.01	65.6%	4.26	-	8.08
他地域との差	-	-12.05	-	-6.87	-	-10.18	-	-8.08	-	-
昨年年度との差	-	-0.40	63.2%	2.14	57.1%	-3.87	75.0%	11.36	-	10.85
1年次との差	-	-10.65	31.6%	-15.88	55.4%	7.90	56.3%	-2.84	-	5.31
2年次との差	-	-4.58	54.4%	-6.63	57.1%	-3.87	75.0%	11.36	-	16.51
3年次との差	-	-5.19	52.6%	-3.30	50.0%	-5.93	75.0%	13.64	-	22.17
4年次との差	-	-3.98	56.1%	-9.96	64.3%	-1.82	75.0%	9.09	-	10.85
1年次との差	-	-1.01	41.2%	-6.23	55.4%	7.90	68.8%	14.20	-	21.58
2年次との差	-	0.09	42.1%	-8.74	58.9%	8.08	70.8%	16.29	-	21.78
3年次との差	-	-2.11	40.4%	-3.72	51.8%	7.72	66.7%	12.12	-	21.38
4年次との差	-	-5.57	37.4%	-0.43	41.7%	3.81	52.8%	1.26	-	18.19
1年次との差	-	-5.43	35.1%	-2.20	41.1%	3.78	47.9%	0.19	-	23.39
2年次との差	-	-6.89	28.1%	9.43	28.6%	9.93	39.6%	-8.14	-	20.72
3年次との差	-	-4.38	49.1%	-8.50	55.4%	-2.27	70.8%	11.74	-	10.46
4年次との差	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

学習・その他

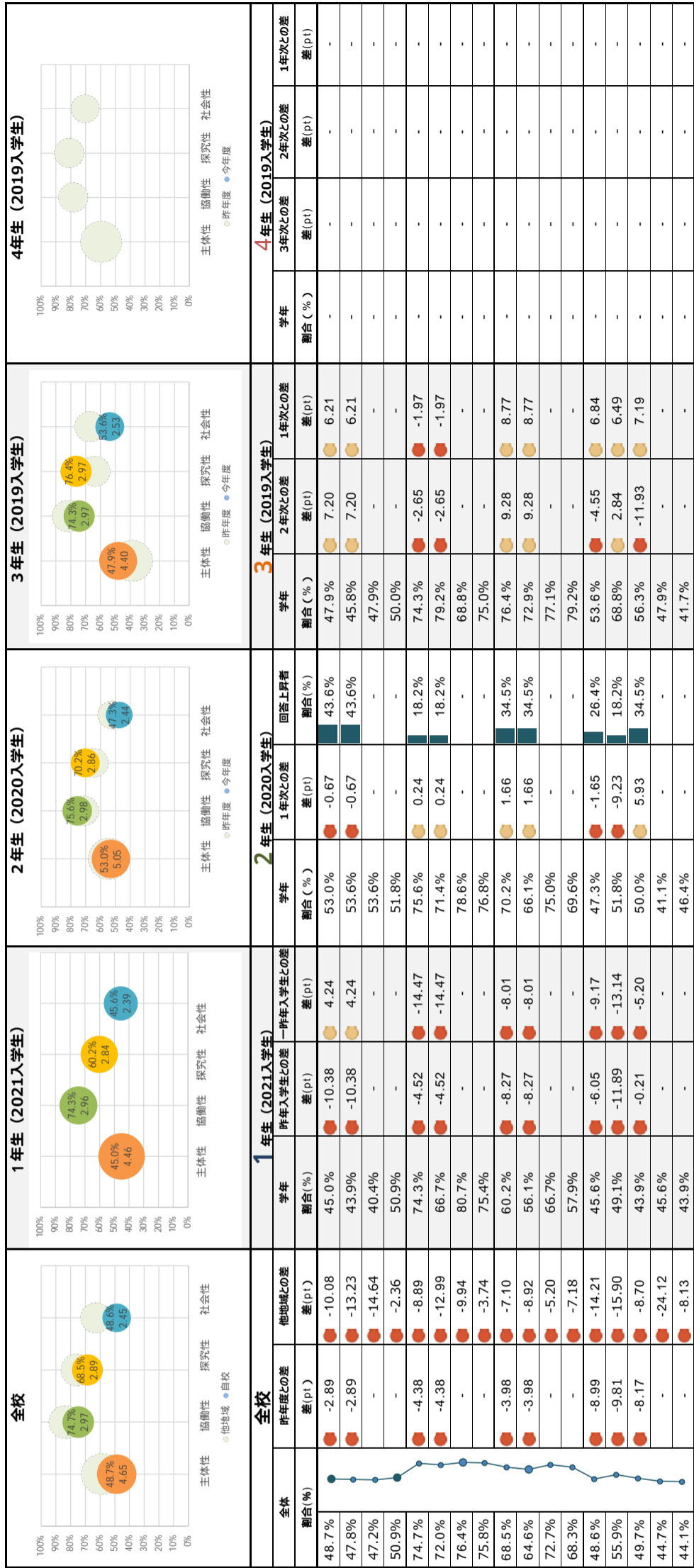
	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	時間(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	時間(分)	差(分)
91 平均的な学習時間[平日]	48.88	-	37.72	-	54.11	-	56.04	-	-	-
92 平均的な学習時間[休日]	71.06	-	61.93	-	69.64	-	83.54	-	-	-

	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
90 この学校を中学生におすすめる	71.4%	-	66.7%	-7.83	67.9%	-	81.3%	-	-	-
78 国際社会の課題解決に貢献したい	36.6%	-7.64	28.1%	-19.18	37.5%	-4.87	45.8%	14.02	-	-
79 また世の中にある新しい技術やサービスを生み出してみたい	35.4%	-9.60	22.8%	-17.87	33.9%	-6.75	52.1%	15.72	-	-
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたること	37.9%	-4.97	24.6%	-9.34	41.1%	7.17	50.0%	15.91	-	-

大人向け調査

	大人向け調査(全回答平均)		大人向け調査(教職員のみ)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
25 この学校を中学生におすすめる	80.8%	-5.12	78.3%	-5.90
26 この学校に関わってよかったと思う	88.5%	-1.83	87.0%	-2.10
27 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	50.0%	-26.72	47.8%	-25.69
28 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながる	82.6%	19.37	82.6%	19.37
29 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながる	91.3%	20.32	91.3%	20.32
30 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	91.3%	22.08	91.3%	22.08
31 [教職員のみ] 地域・社会との協働を通して、業務負担感が軽減につながっている	13.0%	-4.55	13.0%	-4.55

生徒のウェルビーイング



項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
全体	48.7%	-	48.7%	-	53.0%	-0.67	47.9%	7.20	-	-
主体性に関するウェルビーイング	47.8%	-2.89	45.0%	-10.38	53.0%	-0.67	47.9%	7.20	-	-
81 今の生活全般に対する満足度 (0~10で評価: 6以上の割合)	47.2%	-	43.9%	-10.38	53.6%	-	45.8%	7.20	-	-
82 普段のあなたの幸福度 (0~10で評価: 6以上の割合)	50.9%	-	40.4%	-	53.6%	-	47.9%	-	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	74.7%	-4.38	74.3%	-4.52	75.6%	0.24	74.3%	-2.65	-	-
協働性に関するウェルビーイング	72.0%	-4.38	66.7%	-4.52	71.4%	0.24	79.2%	-2.65	-	-
66 この学校に入ってよかったと思う	76.4%	-	80.7%	-	78.6%	-	68.8%	-	-	-
84 学校の一員だと感じている	75.8%	-	75.4%	-	76.8%	-	75.0%	-	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたかと思う	68.5%	-3.98	60.2%	-8.27	70.2%	1.66	76.4%	9.28	-	-
探究性に関するウェルビーイング	64.6%	-3.98	56.1%	-8.27	66.1%	1.66	72.9%	9.28	-	-
68 [再掲] 自分の将来について明るい希望を持っている	72.7%	-	66.7%	-	75.0%	-	77.1%	-	-	-
86 自分の将来についての見通し (将来こういう風でありたい) を持っている	68.3%	-	57.9%	-	69.6%	-	79.2%	-	-	-
87 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	48.6%	-8.99	45.6%	-6.05	47.3%	-1.65	53.6%	-4.55	-	-
社会性に関するウェルビーイング	55.9%	-9.81	49.1%	-11.89	51.8%	-9.23	68.8%	2.84	-	-
58 [再掲] 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	49.7%	-8.17	43.9%	-0.21	50.0%	5.93	56.3%	-11.93	-	-
60 [再掲] 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	44.7%	-	45.6%	-	41.1%	-	47.9%	-	-	-
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	44.1%	-	43.9%	-	46.4%	-	41.7%	-	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

文部科学省指定事業

令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業

(普通科改革支援事業)

研究実施報告書 第1年次

令和5年3月発行

発行者 岩手県立大槌高等学校

〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌 15-71-1

TEL 0193-42-3025 FAX 0193-42-4966

学校 HP <http://www2.iwate-ed.jp/oht-h/>

学校 note <https://oht-hs.note.jp/>

印刷所 株式会社興版社